# 地方創生関係交付金事業の進捗状況（Ｒ７年度）

## 【新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）】

### Ｒ７年度に実施した事業（Ｒ７年度で終了した事業）

#### ①　リモート社会に対応する「フレキシブルな働き方」実現による人の流れの創出事業

（Ｒ３～７）

デジタル技術を活用した「フレキシブルな働き方」を推進するため、デジタル技術を活用できる人材を育成するとともに、サテライトオフィス誘致やワーケーションを推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | デジタル人材育成者数(累計値)<br>【2020年度 0人 → 2025年度 4,160人】 | 人 | 2025 年度 | 4,160 | 5,896 | ○ |
| 2 | サテライトオフィス誘致件数<br>【2020年度 12件 → 2025年度 99件】 | 件 | 2025 年度 | 99 | 106 | ○ |
| 3 | ワーケーションに取り組む施設数<br>【2020年度 0施設 → 2025年度 32施設】 | 施設 | 2025 年度 | 32 | 57 | ○ |

#### ②　移住定住促進に向けた若者の就業・定着強化プロジェクト（Ｒ３～７）

若者の県内定着に向け、小学生から高校生までを対象に地域や地元企業を知る機会を設けるとともに、大学生や求職者と企業とのマッチング支援、企業と連携した若手社員の交流会の開催による若者の県内定着を推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 移住者数(累計)<br>【2019年度 1,498人 → 2025年度 10,084人】 | 人 | 2025 年度 | 10,084 | 11,606 | ○ |
| 2 | 高校で学んだことを活かした職業に就きたいと思う高校生の割合<br>【2019年度 70.1% → 2025年度 81.0%】 | % | 2025 年度 | 81.0 | 76.5 | |
| 3 | 県内私立大学･私立短期大学で地域との協働･連携による地方創生の活動に取り組む学校の割合<br>【2020年度 0校 → 2025年度 19校】 | 校 | 2025 年度 | 19 | 10 | |
| 4 | 若者定着に向けた若手社員の交流会や管理職等の勉強会の修了者数<br>【2020年度 0人 → 2025年度 1,205人】 | 人 | 2025 年度 | 1,205 | 1,217 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　２：地域課題探究学習などを通じて地元産業や地域人材との接点づくりに取り組んできたが、学びと職業とのつながりを実感できず、十分な職業観の形成に至っていないため。

・ＫＰＩ　３：地域社会等との連携体制の構築を前提とする性質上、関係機関との協議・調整や学内体制の整備に時間と労力を要し、実施に至るハードルが高いため。

### ③　ＳＤＧｓを原動力とした「清流の国ぎふ」づくりとサステイナブル・ブランドの構築事業（Ｒ３～７）

環境（環境教育の推進）、経済（サステイナブル・ブランドの構築）、社会（ＳＤＧｓ推進ネットワーク活動を通じた人づくり）の三側面からＳＤＧｓを推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 観光消費額<br>【2020年 1,500億円 → 2025年 3,200億円】 | 億円 | 2024 年 | 3,100 | 4,013 | ○ |
| 2 | 環境にやさしい行動に取り組んだ人の割合(20代)<br>【2019年度 94.1% → 2025年度 100%】 | % | 2025 年度 | 100.0 | 100.0 | ○ |
| 3 | ぎふ清流GAP実践率<br>【2020年度 0% → 2025年度 35%】 | % | 2025 年度 | 35.0 | 19.7 | |
| 4 | 「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク会員数<br>【2020年度 500会員 → 2025年度 1,650会員】 | 会員 | 2025 年度 | 1,650 | 2,315 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　３：実践率の分母となるGAPの取組を支援する対象農業者等が増加したため。

### ④　コンソーシアムを核としたぎふ花きの仕事・暮らし創生プロジェクト（Ｒ３～７）

ぎふ花と緑の振興コンソーシアムを核として、花きの担い手育成を支援するとともに、活用促進や商品開発・販路拡大、花き文化の振興（花き文化を支えるサポーター養成）の三側面から花き産業を支援

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 花き産出額<br>【2020年度 60.5億円 → 2025年度 70億円】 | 億円 | 2025 年度 | 70 | 38.2 | |
| 2 | コンソーシアムによる連携開発事例<br>【2020年度 0事例 → 2025年度 20事例】 | 事例 | 2025 年度 | 20 | 29 | ○ |
| 3 | 園芸福祉サポーター数<br>【2020年度 343人 → 2025年度 500人】 | 人 | 2025 年度 | 500 | 624 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　１：切り花の作付面積は増加したものの生産額が横ばいで推移する一方、鉢花は作付面積・単価とも低下したため。

### ⑤　文化芸術による地域の担い手育成・拡大プロジェクト（Ｒ３～７）

美術館での楽しみ方を広げる役割を担うアートコミュニケーターなど、新たな「地域の担い手」による地域の魅力発信を推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 県美術館アートコミュニケーターの育成数<br>【2019年度 33人 → 2019年度 ～2025年度 累計155人】 | 人 | 2025 年度 | 155 | 180 | ○ |
| 2 | 地歌舞伎、文楽・能伝承教室の参加者数<br>【2020年度（見込）6,020人 → 2025年度 9,000人】 | 人 | 2025 年度 | 9,000 | 7,071 | |
| 3 | 観光消費額<br>【2020年（見込）1,500億円 → 2025年 3,200億円】 | 億円 | 2024 年 | 3,100 | 4,013 | ○ |
| 4 | 移住者数<br>【2019年度 1,498人 → 2025年度 10,200人】 | 人 | 2025 年度 | 10,200 | 11,606 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ ２：当該年度は、国民文化祭や地芝居関連行事に伴う上演が行われず、伝承教室の開催回数も限られたため、目標を達成できなかった。

### ⑥　空宙博を核とした「まちの賑わい」創出事業（Ｒ３～７）

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館を核とした観光誘客を推進するとともに、コロナ禍で苦境の航空宇宙産業の再成長を支援

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 各務原市観光入込客数<br>【2020年 652万人 → 2025年 666万人】 | 万人 | 2025 年度 | 666 | 661 | |
| 2 | 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館入館者数<br>【2019年度 26.9万人 → 2025年度 50万人】 | 万人 | 2025 年度 | 50 | 25 | |
| 3 | 県内航空宇宙産業の製造品出荷額<br>【2018年 2,747億円 → 2025年度 2,545億円】 | 億円 | 2024 年度 | 2,522 | 3,122 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ １：イベント等を開催し、観光入込客数は増加したものの、観光需要の回復が想定を下回り、目標達成に必要な入込客数を確保できなかったため。

・ＫＰＩ ２：コンテンツの充実や企画展の開催により集客に努めているものの、リニューアル後一定期間が経過し、伸び悩みがみられるため。

### ⑦　新たな人の流れづくりに向けた戦国武将観光の広域展開（Ｒ３～７）

戦国・武将観光の広域展開を推進するとともに、観光を契機とした移住定住を視野に入れた関係人口の創出を推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 移住者数(累計)<br>【2019年度 1,498人 → 2025年度 10,200人】 | 人 | 2025 年度 | 10,200 | 11,606 | ○ |
| 2 | 観光入込客数<br>【2020年度 3,500万人 → 2025年度 7,250万】 | 万人 | 2024 年度 | 7,170 | 6,656 | |
| 3 | 関係人口(岐阜県ファンクラブ会員数など)<br>【令和 年度 11,511人 → 2025年度 19,596人】 | 人 | 2025 年度 | 19,596 | 17,906 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ ２：航空便の回復や円安を背景としたインバウンド需要の拡大により宿泊客数は増加したものの、国内の日帰り客数が伸び悩んだため。

・ＫＰＩ ３：大河ドラマの放映や武将観光イベント等の実施により、関係人口の全体数は増加したものの、一部市町村においての減少や伸び悩みが生じたため。

### ⑧　観光産業の基幹産業化プロジェクト（Ｒ５～７）

観光産業を稼げる、魅力ある、働きやすい産業に成長させ、人が集まる業界へと変革するために、職場環境改善とサービスの高付加価値化につながる取組を支援

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 観光消費額<br>【2021年度 1,721億円 → 2025年度 3,200億円】 | 億円 | 2024 年度 | 3,100 | 4,013 | ○ |
| 2 | 観光入込客数(実人数)<br>【2021年度 3,842万人 → 2025年度 4,850万人】 | 万人 | 2024 年度 | 4,800 | 4,470 | |
| 3 | ECサイト(THE GIFTS SHOP)売上額<br>【2021年度 822万円 → 2025年度 1,100万円】 | 万円 | 2025 年度 | 1,100 | 28 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ ２：航空便の回復や円安を背景としたインバウンド需要の拡大により宿泊客数は増加したものの、国内の日帰り客数が伸び悩んだため。

・ＫＰＩ ３：運営事業者の交代後に実店舗運営へ注力したため。

### ⑨　食料安全保障、アフター・コロナを踏まえた「農業新時代」開拓プロジェクト
（Ｒ５～７）

「危機に強い農畜水産物供給体制の構築」、「地産地消県民運動の展開」、「円安メリットを活かした農畜水産物の輸出拡大」、「新次元の地方分散に対応した人材確保」を通じて、県農畜水産事業者の所得向上、仕事創出、地域の経済活性化を図る

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 農畜水産物の輸出額<br>【2021年度 25.9億円 → 2025年度 30億円】 | 億円 | 2025 年度 | 30 | 18.7 | |
| 2 | 食料自給率(供給熱量ベース)<br>【2019年度 25% → 2025年度 29%】 | % | 2023 年度 | 27.0 | 27.0 | ○ |
| 3 | 地産地消率<br>【2021年度 48% → 2025年度 51%】 | % | 2025 年度 | 51.0 | 40.6 | |
| 4 | 長良川の鮎資源量<br>【2022年度 441万尾 → 2025年度 500万尾】 | 万尾 | 2025 年度 | 500 | 878 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　１：鮎は過去最大の輸出量となった一方、飛騨牛や米の輸出が低迷したため。

・ＫＰＩ　３：夏季高温や春先の高温多湿等、天候がトマト、ほうれんそう、いちご等の生育に影響を与え、県内の市場流通量が減少したため。

## Ｒ７年度に実施した事業（Ｒ７年度以降も継続する事業）

### ⑩　岐阜県版「みどりの食料システム」構築プロジェクト（Ｒ４～８）

ＩＣＴ等を活用した新たな栽培技術の開発、生産から流通まで一貫したモデル産地づくりのほか、障がい者や女性、外国人など多様な人材の受入環境を整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 持続的な農地利用を担う経営体数<br>【2021年度 3,414経営体 → 2026年度 4,154経営体】 | 経営体 | 2025 年度 | 4,006 | 3,032 | |
| 2 | 本事業を通じた農福連携マッチング件数<br>【2021年度 38件 → 2026年度 138件】 | 件 | 2025 年度 | 118 | 171 | ○ |
| 3 | 本事業を通じた規格外農産物等を活用した6次産業化商品の開発数<br>【2021年度 0商品 → 2026年度 25商品】 | 商品 | 2025 年度 | 20 | 21 | ○ |
| 4 | ぎふ清流GAP消費者認知度<br>【2021年度 0% → 2026年度 34%】 | % | 2025 年度 | 26.0 | 11.2 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　１：就農相談から定着まで一貫した支援により一定の成果は得られたものの、高齢化や後継者不足、資材価格高騰等による所得の伸び悩みにより、認定農業者等が減少したため。

・ＫＰＩ　４：量販店等でＧＡＰ農産物の販売フェアを実施したものの、販売できる農産物の種類や数量が限定的であったため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・就農から定着までの一貫支援、農福連携、ＧＡＰの考え方を取り入れた岐阜みどり農業認定制度の推進等を通じて、担い手の経営基盤強化と多様な人材の活躍、環境負荷低減に配慮した農業の普及を一体的に進める。

## ⑪　「清流の国ぎふ」の未来を支える森林づくりプロジェクト（Ｒ４～８）

ＩＣＴ等を活用した木材生産の効率化、安全性の向上を図るとともに、木材需要の急激な変動に対応できる体制づくり、森林の新たな価値の創造と山村地域の活性化を推進

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 木材生産性<br>【2020年度 5㎥/人・日 → 2026年度 7.2㎥/人・日】 | ㎥/人・日 | 2025 年度 | 6.8 | 5.4 | |
| 2 | ICTを導入・活用する林業事業体数<br>【2021年度 19者 → 2026年度 83者】 | 者 | 2025 年度 | 68 | 49 | |
| 3 | 林業労働災害の発生件数<br>【2020年度 12.1件/10万㎥ → 2026年度 5.8件/10万㎥】 | 件/10万㎥ | 2025 年度 | 6.9 | 13.7 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　１：小規模林業事業体における木材生産性が低い傾向にあるため。

・ＫＰＩ　２：ＩＣＴ導入支援や技術者育成研修により昨年度より４事業体が増加したものの目標を下回った。

・ＫＰＩ　３：林業労働災害レスキュー訓練やヒヤリ・ハット情報の収集・分析に取り組んだものの、木材生産量の減少等により、単位当たりの発生件数は増加した。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・施業地の集約化、高性能林業機械やＩＣＴ導入、技術者育成を継続するとともに、労働災害対策についてはヒヤリ・ハット情報の活用や研修、優良事例の普及を強化し、生産性向上と安全確保の両立を図る。

## ⑫　製造業の人材確保に向けたデジタル技術を活用した生産性向上と若者のＵターン就職等促進プロジェクト　（Ｒ４～８）

産学官連携による共同研究により、中小製造業のデジタル化、生産性の向上を図るとともに、若者のＵターン就職促進などによる中小製造業等の人材確保を支援

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 県内製造業(4人以上300人未満)における一人当たり付加価値額<br>【2019年度 9,227千円／人 → 2026年度 10,102千円／人】 | 千円/人 | 2023 年度 | 9,502 | 9,940 | ○ |
| 2 | 技術移転件数<br>【2021年度 0件 → 2026年度 37件】 | 件 | 2025 年度 | 29 | 56 | ○ |
| 3 | 県出身大学生(新卒者)の県内企業への就職率<br>【2021年度 31% → 2026年度 54.8%】 | % | 2024 年度 | 49.0 | 28.6 | |
| 4 | 県内大学新卒者の県内企業への就職率<br>【2021年度 41.5% → 2026年度 56%】 | % | 2024 年度 | 53.2 | 40.2 | |

### ＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ ３及びＫＰＩ ４：給料等の条件が良い都市部や大手企業を選ぶ傾向が続いているため。

### ＜プロジェクトの方向性＞

・県内製造業の技術開発・技術移転と人材育成を継続しつつ、若者の県内就職率向上に向けて中小企業総合人材確保センターを通じた採用力強化と本県で働く魅力の発信を一層進める。

## ⑬　オール岐阜による脱炭素社会実現プロジェクト（Ｒ５～９）

再生可能エネルギーの導入促進、自動車業界のＥＶ化支援、カーボン・オフセットの全県展開及び建築物のＺＥＢ化といった取組により、エネルギー関連産業の創出、県内事業者の企業価値の向上、更には地域の強靭化・活性化など社会経済や産業構造の変革を伴った「経済と環境の好循環」を目指す

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | EV化対応計画策定件数(累計)<br>【2022年度 5件 → 2027年度 45件】 | 件 | 2025 年度 | 29 | 29 | ○ |
| 2 | 脱炭素関連セミナー等参加者数(累計)<br>【2022年度 106人 → 2027年度 646人】 | 人 | 2025 年度 | 406 | 482 | ○ |
| 3 | ZEB導入セミナー受講者数<br>【2022年度 0人 → 2025年度 150人】 | 人 | 2025 年度 | 150 | 162 | ○ |

### ＜プロジェクトの方向性＞

・ＥＶ化対応計画の策定支援、脱炭素関連セミナーの周知、ＺＥＢ化の推進を継続し、県内事業者の次世代化と脱炭素人材の育成、建築物の省エネルギー化を一体的に進める。

### ⑭　中小企業の事業継続・新事業展開による地域経済の活力創出プロジェクト（Ｒ５～９）

製造工程の再構築、新分野展開等による付加価値向上やデジタル技術を活用した生産性の向上を支援することにより、持続的かつ安定的な企業体制の構築を目指す

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 製造業における従業員1人当たりの付加価値額<br>【2019年度 995万円 → 2027年度 1,170万円】 | 万円 | 2023 年度 | 1,030 | 1,047 | ○ |
| 2 | 後継者不在率<br>【2022年度 62.9% → 2027年度 56.9%】 | % | 2025 年度 | 57.9 | 56.4 | ○ |
| 3 | 県内航空宇宙産業関連の製造品出荷額等<br>【2020年度 2,543億円 → 2027年度 3,327億円】 | 億円 | 2023 年度 | 1,764 | 2,017 | ○ |

**＜プロジェクトの方向性＞**

・ＤＸ相談・支援、事業承継、販路拡大や宇宙・ドローン等の新ビジネス参入支援を継続し、県内企業の生産性向上、事業継続、新事業展開を後押しする。

### ⑮　岐阜県生活わくわく支援パッケージ※42 市町村との連携（Ｒ５～９）

東京圏の移住希望者と県内企業とのマッチングを行うとともに、移住の負担を軽減する支援金を助成。また、県内で起業する者に対しては起業資金の一部を助成

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 本移住支援事業に基づく移住者数<br>【2022年度 77人 → 2027年度 1,694人】 | 人 | 2025 年度 | 911 | 394 | |
| 2 | 本起業支援事業に基づく起業者数<br>【2022年度 4人 → 2027年度 45人】 | 人 | 2025 年度 | 25 | 14 | |
| 3 | マッチングサイトに新たに掲載された求人数<br>【2022年度 226件 → 2027年度 1,476件】 | 件 | 2025 年度 | 976 | 2,770 | ○ |
| 4 | 本移住支援事業に基づく18歳未満の世帯員を帯同して移住した世帯数<br>【2022年度 3世帯 → 2027年度 177世帯】 | 世帯 | 2025 年度 | 90 | 66 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ １：コロナを契機とした地方回帰の流れが、想定よりも緩やかであったため。
・ＫＰＩ ２：移住要件の撤廃により申請数は増加したものの、独創性や成長性に乏しい申請が多く、採択が限定的となったため。
・ＫＰＩ ４：コロナを契機とした地方回帰の流れが、想定よりも緩やかであったため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・移住支援制度や起業支援制度の周知方法を見直しながら、県内企業へのマッチングサイト登録・利用促進も継続し、東京圏等からの移住、県内での起業、就業マッチングを一体的に支援する。

## ⑯　プロフェッショナル人材事業（Ｒ５～９）

企業のＤＸ人材等のプロフェッショナル人材確保を支援し、企業の成長を後押しすることで、県経済の更なる活性化を図る

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | プロフェッショナル人材成約件数<br>【2022年度 210件 → 2027年度 969件】 | 件 | 2025 年度 | 747 | 1,222 | ○ |
| 2 | プロフェッショナル人材採用 相談件数<br>【2022年度 360件 → 2027年度 1,351件】 | 件 | 2025 年度 | 1,061 | 778 | |
| 3 | プロフェッショナル人材企業シート提出件数<br>(副業・兼業・DX人材)<br>【2022年度 19件 → 2027年度 111件】 | 件 | 2025 年度 | 75 | 115 | ○ |
| 4 | サテライト拠点が対応したプロフェッショナル人材<br>採用相談件数(自走化後を含む)<br>【2022年度 400件 → 2027年度 2,710件】 | 件 | 2025 年度 | 1,910 | 1,529 | |
| 5 | 副業・兼業人材の新規利用企業へのマッチング件数<br>【2027年度 60件】 | 件 | 2025 年度 | 20 | 13 | |

### ＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ ２：自走化を目指し運営拠点への支援の縮減を進めた結果、拠点における活動が減少し、案件の掘り起こしが十分に進まなかったため。

・ＫＰＩ ４：自走化を目指し拠点との事業関係を委託から無償の連携協定に変更した結果、拠点における活動が減少し、案件の掘り起こしが十分に進まなかったため。

・ＫＰＩ ５：「副業・兼業」の活用に対する認知や理解が進まず、活用する県内企業が少なかったため。

### ＜プロジェクトの方向性＞

・県内金融機関や中小企業総合人材確保センターとの連携を強化し、企業訪問や制度周知を通じてプロフェッショナル人材、副業・兼業人材、ＤＸ人材のニーズ掘り起こしとマッチング拡大を進める。

## ⑰　賃上げにつながる産業の「稼ぐ力」強化プロジェクト（Ｒ６～８）

県内企業の売上向上・利益増加に資する施策を実施し、それを原資として県民の賃上げにつなげる（県民所得の向上）とともに、利益の分配において女性を含めたすべての働く人々に等しく配分される社会の実現を目指す

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 地域における新規雇用者数<br>【2023年度 102,180人 → 2026年度 103,101人】 | 人 | 2025 年度 | 102,794 | 93,803 | |
| 2 | 県内製造業(4人以上300人未満)における<br>一人当たり付加価値額<br>【2023年度 9,502千円/人 → 2026年度 10,102千円/人】 | 千円/人 | 2024 年度 | 9,682 | ― | |
| 3 | ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業数(累計)<br>【2023年度 198社 → 2026年度 276社】 | 社 | 2025 年度 | 250 | 213 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　１：県内企業の知名度・魅力が十分に求職者に伝わりきっておらず、若年層を中心とした求職者の県外流出が続いているため。

・ＫＰＩ　３：申請数が想定より少なかったことに加え、申請企業の一部が認定基準を満たさなかったため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・企業の人材確保と働きやすい職場づくりに向け、県内外の大学・高校へのキャリア教育等による企業魅力発信と、エクセレント企業の認定メリット拡大や制度周知を進め、雇用創出とワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

## ⑱　地域の活力創出につながる農畜水産業の魅力向上プロジェクト（Ｒ６～８）

農畜水産物の魅力を一層引き出すとともに、本県固有の地域資源の利活用を進めるほか、農畜水産物を県内の飲食・観光業から「選ばれる食材」へと昇華させ、「清流の国ぎふ」ブランド力向上を図る

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況　→　最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 地域における農林水産出荷額<br>【2023年度 114,239百万円 → 2026年度 117,584百万円】 | 百万円 | 2024 年度 | 114,340 | 142,339 | ○ |
| 2 | 基幹種雄牛の造成頭数<br>【2023年度 10頭 → 2026年度 12頭】 | 頭 | 2025 年度 | 11 | 11 | ○ |
| 3 | 岐阜県内の鮎の年間消費率<br>【2023年度 78% → 2026年度 98%】 | % | 2025 年度 | 88.0 | 86.0 | |
| 4 | データ活用型農業を実践する経営体数<br>【2023年度 10経営体 → 2026年度 340経営体】 | 経営体 | 2025 年度 | 70 | 425 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　３：鮎の消費拡大イベントや情報発信により、令和６年度に比べ年間消費率は向上したものの、一般家庭における日常的な消費促進に向けたＰＲが十分でなく目標達成には至らなかった。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・多様な主体の農業参画や新たな農業ビジネスの創出、基幹種雄牛の造成、鮎消費拡大キャンペーン、スマート農業技術の活用を継続・発展させ、農畜水産業の魅力と生産性の向上を図る。

## ⑲　夏季の高温など極端な気象現象を乗り越える農業対策プロジェクト（Ｒ７～１２）

生産者や関係団体、企業、消費者と連携し、技術導入や新技術開発を進めることで生産量や品質を向上させ、地域経済の活性化と温室効果ガスの削減を目指す

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 地域における農業産出額<br>【2023年度 1,263億円 → 2030年度 1,353億円】 | 億円 | 2025 年度 | 1,278 | — | — |
| 2 | 地域における新規雇用就農者数<br>【2024年度 0人 → 2030年度 1,140人】 | 人 | 2025 年度 | 190 | 356 | ○ |
| 3 | 中山間地に適した水稲の品種・系統の選定数<br>【2024年度 0 → 2030年度 3】 | | 2025 年度 | 0 | 0 | ○ |
| 4 | 中山間地園芸品目の高温対策技術の開発数<br>【2024年度 0 → 2030年度 4】 | | 2025 年度 | 0 | 0 | ○ |
| 5 | 温室効果ガスの大口排出企業への直接訪問回数<br>【2024年度 0件 → 2030年度 90件】 | 件 | 2025 年度 | 15 | 15 | ○ |

### ＜プロジェクトの方向性＞

・雇用就農の確保、高温登熟耐性を有する水稲品種・系統の選定、中山間地園芸品目の高温・地下水位対策技術の開発、大口排出事業者への伴走支援を継続し、気候変動への適応と温室効果ガス削減を両面から進める。

## ⑳　ＡＩ・ロボット技術による企業の生産性向上プロジェクト（Ｒ７～９）

ＡＩ・ロボット技術の導入により作業工程を省力化・最適化し、人材不足を改善するこれとより、競争力を高め、持続可能な技術活用と生産性向上を図る

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 県内製造業における一人当たり付加価値額<br>【2022年度 9,507千円/人 → 2027年度 9,807千円/人】 | 千円/人 | 2025 年度 | 9,607 | — | — |
| 2 | AI･ロボット等導入による生産性向上県内企業割合<br>【2024年度 0% → 2027年度 21%】 | % | 2025 年度 | 7.0 | 14.3 | ○ |
| 3 | 職業能力開発短期大学校でロボット技能を習得した<br>外国人材の就職先企業数<br>【2024年度 0社 → 2027年度 30社】 | 社 | 2025 年度 | 10 | 8 | |
| 4 | リスキリング合同説明会(マッチングイベント)参加者数<br>【2024年度 0人 → 2027年度 300人】 | 人 | 2025 年度 | 100 | 82 | |

### ＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ　３：外国人訓練生数は年々増加傾向にあるが、当該年度においては途中退校者があったため。

・ＫＰＩ　４：研修機関、相談機関の参加に比べて、企業側の参加が振るわなかったため。

＜プロジェクトの方向性＞

・ＡＩ・ロボット等の導入が堅調に進む一方で、外国人訓練生や企業側参加者の拡大が課題であるため、研修機関・相談機関と連携しながら技能習得、人材確保、マッチング参加を促進し、県内企業の生産性向上を図る。

## ㉑　地域産業の新たな価値創造プロジェクト（Ｒ７～９）

成長産業であるヘルスケア産業において、既存企業、新規参入企業、スタートアップの連携を通じて新たな価値を創造し、地域産業として持続的に成長できる企業群を形成する

＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 県内医療機器･医薬品産業の生産金額<br>【2024年度 2,274億円 → 2027年度 2,569億円】 | 億円 | 2025 年度 | 2,369 | ― | ― |
| 2 | ヘルスケア産業参入企業とスタートアップ等との連携件数(累計)<br>【2024年度 0件 → 2027年度 9件】 | 件 | 2025 年度 | 3 | 3 | ○ |
| 3 | ロールモデルとなり得るスタートアップの認定件数(累計)<br>【2024年度 6件 → 2027年度 21件】 | 件 | 2025 年度 | 11 | 10 | |
| 4 | 革新的ヘルスケア製品の開発･販路開拓に取り組む<br>県内企業への支援件数<br>【2023年度 0件 → 2027年度 37件】 | 件 | 2025 年度 | 10 | 11 | ○ |

＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ　３：外部審査の結果、革新性や市場性・拡張性の基準を満たさない申請が複数あったため。

＜プロジェクトの方向性＞

・専門コーディネーターによる伴走支援、企業とスタートアップの交流・展示会出展、スタートアップ認定制度の周知、助成金活用の促進を継続し、ヘルスケア産業への参入と革新的製品の開発・販路開拓を支援する。

## ㉒　世界に選ばれる持続可能な観光地づくりプロジェクト（Ｒ７～９）

サステイナブル・ツーリズムを推進し、地域資源を活用した新たな観光コンテンツを創出することで、地域間格差を是正し、観光の受け入れ体制を整備することを目指す

＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 観光消費額<br>【2023年度 3,044億円 → 2027年度 3,600億円】 | 億円 | 2025 年度 | 3,300 | ― | ― |
| 2 | 外国人延べ宿泊者数<br>【2023年度 110万人 → 2027年度 200万人】 | 万人 | 2025 年度 | 170 | 200 | ○ |
| 3 | 国際認証取得地域数<br>【2024年度 7地域 → 2027年度 10地域】 | 地域 | 2025 年度 | 8 | 7 | |

＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ　３：持続可能な観光に係る国際認証等の枠組みを活用した取組を支援し、地域の魅力度向上につながったものの、年度内の国際認証取得には至らなかったため。

＜プロジェクトの方向性＞

・外国人宿泊者数の増加や国際認証取得に向けた成果を踏まえ、持続可能な観光地域づくりへの支援を継続し、外国人延べ宿泊者数と国際認証等取得地域数の増加を目指す。

## ㉓　文化イヤーを契機とした「清流文化」の深化・浸透・拡大プロジェクト（Ｒ７～９）

文化芸術活動を通じて地域への愛着や誇りを醸成し、多彩な文化プログラムの展開により地域の活力を高め、共に生きる地域社会を実現する

＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 移住者数<br>【2023年度 1,792人 → 2027年度 6,592人】 | 人 | 2025 年度 | 3,392 | 3,398 | ○ |
| 2 | 文化芸術の創作活動に取り組む人の割合<br>【2023年度 25.2% → 2027年度 30.4%】 | % | 2025 年度 | 26.9 | 29.0 | ○ |
| 3 | 県有文化施設(美術館･現代陶芸美術館･博物館)の利用者数<br>【2023年度 365,229人 → 2027年度 410,001人】 | 人 | 2025 年度 | 380,153 | 333,195 | |

＜目標値未達の要因＞

・ＫＰＩ　３：博物館において、停電発生により約２か月間、臨時休館としたため。

＜プロジェクトの方向性＞

・文化の魅力発信、文化団体への伴走型支援、魅力ある企画展や学校アウトリーチ、県有文化施設での展示を継続し、県内外からの来訪促進と文化芸術活動への参加拡大を図る。

## ㉔　「外国人県民」との共生社会の創出プロジェクト（Ｒ７～９）

外国人材の獲得競争が激化する中で、外国人県民が長く定着し、地域の活力を創出するための支援を強化し、多文化共生社会を実現することを目指す

＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 地域における外国人数の対前年度増加数<br>【2023年度 69,477人 → 2027年度 87,477人】 | 人 | 2025 年度 | 75,477 | 80,766 | ○ |
| 2 | 外国人労働者数の対前年度増加数<br>【2023年度 40,028人 → 2027年度 49,028人】 | 人 | 2025 年度 | 43,028 | 47,534 | ○ |
| 3 | 外国人インターンシップ参加者数<br>【2023年度 0人 → 2027年度 40人】 | 人 | 2025 年度 | 10 | 15 | ○ |

＜プロジェクトの方向性＞

・県内の外国人数・外国人労働者数の増加を踏まえ、多文化共生社会の実現に向けた取組を継続するとともに、県内企業と外国人材のマッチングを進め、インターンシップ参加者の増加につなげる。

## ㉕　地域に眠る森林資源の発掘・磨き上げプロジェクト（Ｒ７～９）

未利用広葉樹資源の有効活用により広葉樹サプライチェーンを構築するとともに、県産材製品の輸出量を拡大し、特に欧州市場での販路を開拓することで、地域経済の活性化と持続可能な森林利用を目指す

### ＜事業効果＞

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 木材生産量<br>【2023年 599千㎥ → 2027年 650千㎥】 | 千㎥ | 2025 年度 | 616 | 624 | ○ |
| 2 | 県産木製品の欧州向け輸出取扱額<br>【2024年度 4,000千円 → 2027年度 10,000千円】 | 千円 | 2025 年度 | 5,000 | 6,600 | ○ |
| 3 | 県内産しいたけ原木調達本数<br>【2019年度 115千本 → 2027年度 124.5千本】 | 千本 | 2025 年度 | 119.5 | ― | ― |

### ＜プロジェクトの方向性＞

・施業地の集約化、高性能林業機械の導入、路網整備等による木材生産量の拡大、欧州向け輸出の継続、県産材流通の取組を進め、地域に眠る森林資源の活用と販路拡大を図る。

## 【地方創生拠点整備タイプ（地方創生拠点整備交付金）】

（Ｒ６年度以前に終了した評価未完了の事業）

### ①　国内最高水準飼養衛生管理環境を有する畜産研究所を核とした高品質畜産物の生産力・生産体制強化プロジェクト（Ｒ３～Ｒ６）

国内最高水準の防疫体制による安定した種の供給により、強固な高品質畜産物の「稼ぐ」生産基盤を構築し、県内農家の生産額増加による所得の向上、市場拡大による新たな担い手の増加につなげるため、施設を整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 種豚供給頭数<br>【2020年度 0頭/年 → 2030年度 16頭/年】 | 頭/年 | 2025 年度 | 4 | 13 | ○ |
| 2 | 豚液状精液供給本数<br>【2020年度 0本/年 → 2030年度 2,600本/年】 | 本/年 | 2025 年度 | 900 | 3,085 | ○ |
| 3 | 県内の豚・鶏(肉用)の産出額<br>【2019年度 66億円/年 → 2030年度 118.5億円/年】 | 億円/年 | 2025 年度 | 118 | 116 | |
| 4 | 県産業動物獣医師 採用数(累計)<br>【2020年度 2人 → 2030年度 22人】 | 人 | 2025 年度 | 12 | 15 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ ３：豚熱により減少した豚飼養頭数が回復してきたが、飼養戸数の減少等があり産出額は目標にわずかに達していない。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・種豚「ボーノブラウン」の再造成と種豚・精液供給を進めるとともに、全国の獣医系大学へのＰＲを継続し、県内養豚業の振興と産業動物獣医師の確保を図る。

### ②　新規就農を促進するための新品目栽培試験（冬春作果菜類の養液栽培による高収量・高収益技術の確立）施設の整備（Ｒ３）

冬春作型でのきゅうり養液栽培システム及び統合環境制御システムを備えた低コスト耐候性軒高ハウスを整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 担い手育成数<br>（2020年度 0人・経営体 → 2025年度 2,220人・経営体） | 人・経営体 | 2025 年度 | 2,200 | 2,698 | ○ |
| 2 | スマート農業技術導入経営体数<br>（2020年度 238経営体 → 2025年度 1,000経営体） | 経営体 | 2025 年度 | 1,000 | 993 | |
| 3 | 新たな実用技術(実用段階)課題数<br>（2020年度 0課題 → 2025年度 100課題） | 課題 | 2025 年度 | 100 | 98 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　２：スマート農業に必要な機械・機器やサービスの導入コストが高額となるケースが多く、中小規模の農業経営体において導入が進まなかったため。

・ＫＰＩ　３：研究内容の見直し等により一部研究課題において進捗が遅れたため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・新規就農者の確保、スマート農業技術の導入支援、新たな実用技術の研究開発を継続し、担い手育成と省力化生産への転換、実用技術の開発を一体的に進める。

**③　ソフトピアジャパン・スマートワーク推進拠点の整備（Ｒ４～８）**

ソフトピアジャパン・ワークショップ２４内に入居企業及び立地企業がテレワーク等を行うためのコワーキングスペースを整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | ソフトピアジャパンにおけるデジタル人材の育成・獲得数(累計)<br>【2020年度 196人 → 2026年度 1,661人】 | 人 | 2025 年度 | 1,368 | 1,746 | ○ |
| 2 | サテライトオフィス等施設の利用者数<br>(地方創生テレワーク推進実施計画)<br>【2021年度 0人 → 2026年度 1,200人】 | 人 | 2025 年度 | 840 | 418 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　２：コロナ禍収束に伴うＢＣＰ向けサテライトオフィス需要が減少したため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・デジタル人材育成への高い企業ニーズを踏まえて事業を継続するとともに、企業交流事業等を契機とした入居促進を図り、企業誘致やデジタル人材の育成・獲得につなげる。

**④　ＤＸをぎふ花きの仕事創出につなげる（花きの担い手育成支援施設を拠点としたＤＸ技術の普及）施設の整備（Ｒ４～８）**

花き生産者にＤＸ技術の導入を検討してもらうため、温室内を自動制御できる環境制御装置を備えた体験施設を整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 当該施設において育成支援した担い手数<br>【2021年度 0人・経営体 → 2026年度 72人・経営体】 | 人・経営体 | 2025 年度 | 54 | 96 | ○ |
| 2 | 花きのスマート農業技術導入経営体数<br>【2021年度 0経営体 → 2026年度 20経営体】 | 経営体 | 2025 年度 | 15 | 30 | ○ |
| 3 | 県育成品目(フランネルフラワー)の栽培面積<br>【2021年度 0a → 2026年度 5a】 | a | 2025 年度 | 3.8 | 5 | ○ |

**＜プロジェクトの方向性＞**

・花き経営体の技術課題に関する情報収集を強化し、施設を拠点とした技術研修、環境制御装置等の利用啓発、スマート農業を活用した栽培マニュアルづくり、フランネルフラワーの生産技術普及を継続する。

### ⑤　テクノプラザ　スマート工場実証ラボの整備（Ｒ５～９）

県内中小製造業の「スマート工場化」の取組みをバックアップするため、スマート工場化の実証や研究を実施できる環境をテクノプラザ本館に整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 労働生産性(付加価値額を従業者数で除して算出)<br>【2019年度 995万円 → 2027年度 1,135万円】 | 万円 | 2023 年度 | 995 | 1,047 | ○ |
| 2 | スマート工場実証ラボの利用企業数<br>【2022年度 0社 → 2027年度 40社】 | 社 | 2025 年度 | 20 | 2 | |
| 3 | スマート工場実証ラボを活用した人材育成者数<br>【2022年度 0人 → 2027年度 260人】 | 人 | 2025 年度 | 110 | 141 | ○ |
| 4 | スタートアップ用オフィス誘致数<br>【2022年度 0社 → 2027年度 5社】 | 社 | 2025 年度 | 3 | 4 | ○ |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　２：１社あたりの実証実験の計画期間が長期化し、年間で受け入れ可能な企業数に制限が発生しているため。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・労働生産性や人材育成は堅調に推移しているため取組を継続しつつ、スマート工場実証ラボの利用拡大に向けた広報を強化し、企業の自動化・ロボット技術導入と人材育成を促進する。

### ⑥　世界に誇るバラ園で花と緑の産業人材育成拠点の整備（Ｒ５～９）

ぎふワールド・ローズガーデン内の既存施設を改修し、学生や花き文化団体が栽培・制作した花き生産物や装飾作品を販売・展示できる販売展示スペースを整備するとともに、研修室や更衣室・シャワー室を備えた実習棟を整備

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 当該施設への来場者数<br>【2022年度 0人/年 → 2027年度 10,000人/年】 | 人/年 | 2025 年度 | 8,000 | 60,140 | ○ |
| 2 | 当該施設における実践的な授業時間<br>【2022年度 206単位時間 → 2027年度 406単位時間】 | 単位時間 | 2025 年度 | 386 | 765 | ○ |
| 3 | 国際園芸アカデミー受験者数(3ヶ年平均)<br>【2022年度 25人 → 2027年度 30人】 | 人 | 2025 年度 | 28 | 26 | |

**＜目標値未達の要因＞**

・ＫＰＩ　３：カリキュラムのＰＲ等により受験者数は増加したものの、少子化による対象者数の減少や農業高校出身者の進路の多様化により、目標値には達しなかった。

**＜プロジェクトの方向性＞**

・国際園芸アカデミーの実践教育や花き文化団体の活動発信、施設を活用した授業時間の確保、学校の魅力ＰＲを計画的に進め、花き消費拡大と産業人材の育成につなげる。

### ⑦　中山間地域の漁業振興のための魚類研究飼育施設整備計画（Ｒ６～１０）

中山間地域の水産業振興のため、水産研究所下呂支所に鮎・イワナの飼育施設を整備し、種苗開発とスマート水産業の推進を図る

**＜事業効果＞**

| KPI番号 | KPI(事業の実施状況に関する客観的な指標)<br>【事業開始前の状況 → 最終目標】 | 単位 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 目標値 | 実績値 | 達成状況 |
| 1 | 地域における農林水産出荷額<br>【2022年度 2,187百万円 → 2028年度 2,357百万円】 | 百万円 | 2024 年度 | 2,187 | ― | ― |
| 2 | 県保有イワナ系統数<br>【2023年度 1系統 → 2028年度 3系統】 | 系統 | 2025 年度 | 1 | 1 | ○ |
| 3 | 県魚苗センターが中山間地漁場向けに供給する鮎種苗の系統数<br>【2023年度 0系統 → 2028年度 2系統】 | 系統 | 2025 年度 | 0 | 0 | ○ |

**＜プロジェクトの方向性＞**

・新施設での研究を活用し、イワナや鮎の優良系統の選定・育成を進めることで、中山間地域の漁業振興と種苗供給体制の強化を図る。